

平成 25 年 7 月 25 日

各 位

会社名 石油資源開発株式会社
代表取締役社長 渡辺 修
問合先責任者 広報 IR 部長 三原 章司
電話番号 03-6268-7110

秋田・^{おんながわ}女川層タイトオイルに係る取り組みについて

石油資源開発株式会社（以下、当社）は、昨年 3 月以降、我が国では初めてとなる、タイトオイル（シェールオイル）開発に向けて、秋田県内の当社油田を対象とした実証試験を含む研究開発に取り組んでおります。

その一環として、昨年 10 月、^{あゆかわ}鮎川油ガス田（秋田県由利本荘市）の既存坑井である黒沢AK-1号井（以下、本井）を用いて、女川タイト層に対して酸処理テストを実施するとともに、その後も、本井の能力をより正確に把握するため 2 回のフローテストを実施した結果、一定量のタイトオイルの産出が確認されました（以下、鮎川実証試験）。

今般、鮎川実証試験の生産量結果等について取り纏めを行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、本結果を踏まえ、女川タイト層を有する県内他油田において新たに計画中の実証試験につきましても、併せてお知らせいたします。

なお、本タイトオイルに係る取り組みは、JOGMEC（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）の支援対象事業として実施させて頂いております。JOGMEC との契約概要および鮎川実証試験の経緯については、平成 24 年 7 月 20 日、10 月 4 日および 10 月 10 日の当社各リリースをご参照ください。

記

1. 鮎川実証試験に係る取り組みについて

(1) 生産量等作業経過

- ① 酸処理テストおよびフローバック作業 : 平成 24 年 10 月 1 日～10 月 8 日
 - ・酸処理流体注入総量 : 141.6kl
 - ・原油生産量 : 31.1kl（日量約 6kl（相当））
 - ・酸処理流体回収量（含む地層水） : 69.5kl
- ② 第一回フローテスト（併せて坑井圧力測定実施）: 平成 24 年 11 月 21 日～12 月 13 日
 - ・原油生産量 : 71.2kl（日量約 6kl）
 - ・酸処理流体回収量（含む地層水） : 0.06kl
- ③ 第二回フローテスト（併せて坑井圧力測定実施）: 平成 25 年 5 月 13 日～7 月 10 日
 - ・原油生産量 : 1,419.0kl（日量約 40kl）
 - ・酸処理流体回収量（含む地層水） : 57.9kl

(2) 鮎川実証試験の評価結果等

- ・昨年 10 月に実施した酸処理テストおよびその後の 2 回のフローテストを通じ、本井からの原油の累計生産量は 1,521.3kl となりました。当該酸処理のために注入した酸処理流体（計 141.6kl）の回収量は累計で 127.5kl です。

- ・また、第二回フローテストの最終時の原油生産レートは日量約 40kl を確認しております。本井は、酸処理を実施した結果、酸処理前（日量約 1.5kl）に比べ日量で 20 倍以上の生産量の改善がみられたことから、本実証試験は良好な成果が得られたものと判断しております。
- ・この結果を受けて、地上設備等の準備を含め、本井の商業生産に向けた検討を進めてまいります。

2. 福米沢油田における新たな実証試験の取り組みについて

当社は、鮎川実証試験の評価結果を踏まえ、鮎川油ガス田と同様に女川タイト層が分布する当社の福米沢油田（秋田県男鹿市、^{さるかわ}申川油田群の 1 つ）において、新たな実証試験（水平井掘削およびフラクチャリング作業）に向けた基本計画を策定し、今般、その実施に向けて準備を開始することといたしました。

実施時期や作業内容については、現在、関係各方面のご支援、ご協力を仰ぎながらその詳細について検討を進めているところです。併せて、環境に対して十分な配慮をすべく、あらゆる角度から調査・検討を行ってまいります。

なお、新たな実証試験を含む本件取り組みについては、引き続き、JOGMEC からのご支援ご協力を要請してまいります。

以 上

【参考写真】



鮎川実証試験にて回収された原油



鮎川油ガス田（秋田県）における酸処理テストの様子